

# Weekly Market Report

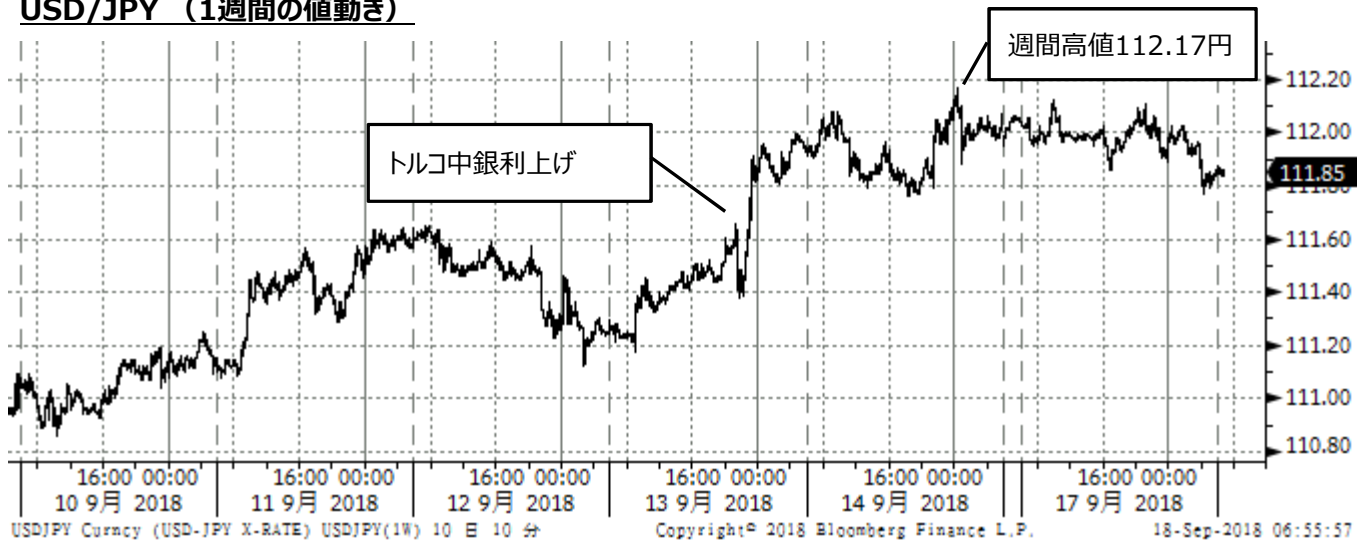
Sep 18, 2018

FX, JPY Interest Rate, Topics

## 1. 為替相場概況

### 引続き相場の関心は米国を中心とした通商問題

#### USD/JPY (1週間の値動き)



#### コメント

先週のドル円相場は米中通商協議再開への期待やトルコ中央銀行の大幅利上げ等を材料にドルが買われる展開となった。週前半は、前週末の良好な米雇用統計結果や、本邦企業による米半導体メーカーの大型M&Aの報道を受けドル買いが先行。12日に発表された米生産者物価指数が市場予想を大きく下回った事で一時ドル売りが優勢となったが、13日にはトルコ中央銀行が政策金利を大幅に引き上げたことで新興国通貨への懸念が後退した事や、トランプ大統領が米中通商協議再開の意欲をみせた事などからリスクオフムードが後退しドル円は上昇に転じた。14日には112.17円の週間高値を示現し、結局112円近辺で週の取引を終えている。今週は日銀金融政策決定会合が予定されているが、現状維持が予想されておりドル円への影響は少ないと思われる。注目は21日に予定されている二回目の日米通商協議。米国と各主要国との通商協議が難航している状況下、日本が先行して交渉妥結となる可能性は低く、交渉が難航した場合の円高リスクには注意が必要だ。また、米国が対中関税第3弾を24日に発動するとの報道もあり、引続き通商問題を巡るヘッドラインを材料に為替相場は上下動しそうだ。(市場営業部/川合)

#### 今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
9/18(火) -19(水)	(日) 日銀金融政策決定会合	-
9/19(水)	(米) 経済収支	-1,037億ドル
9/20(木)	(米) 中古中宅販売件数	538万件
9/21(金)	(日) 全国CPI(前年同月比)	1.1%
9/21(金)	(日) 第二回日米通商協議	-

#### USD/JPY (4年間)



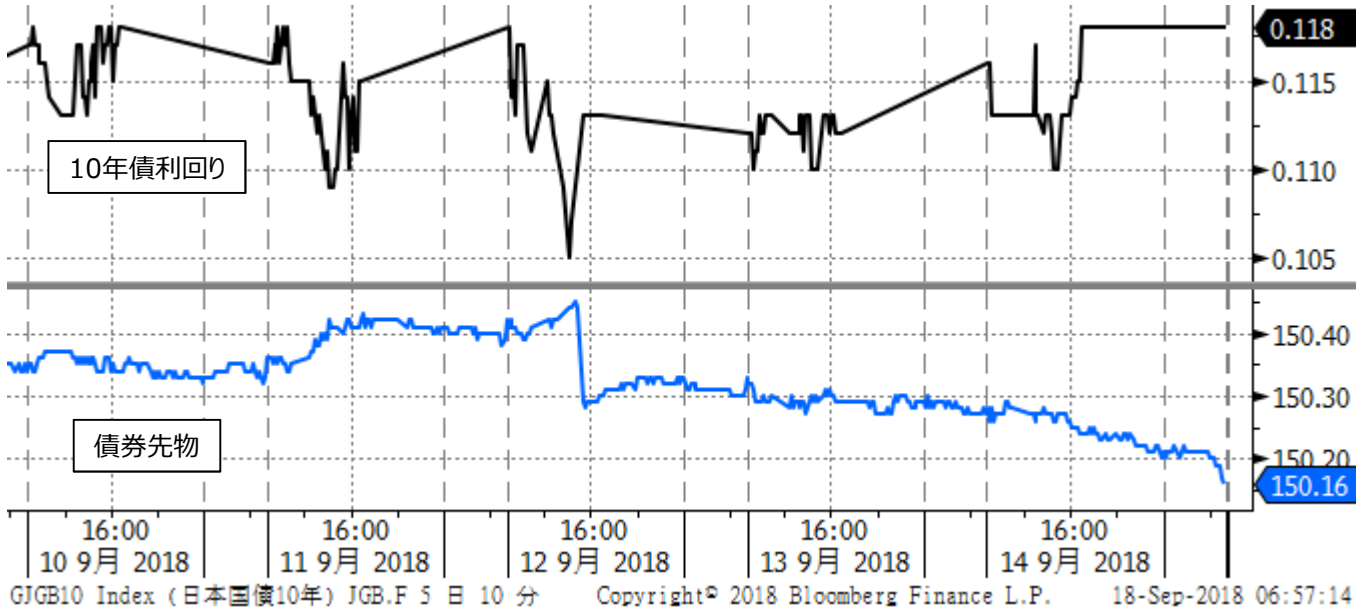
#### 今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
今村仁	110.50 - 112.50	米VS他主要国の貿易問題・新興国問題によるリスクON・OFFでの往来相場を見る。そろそろパトリの円買いに注意。
川合隆行	110.00 - 112.50	米国を中心とした主要国の通商問題への警戒感や、翌週のFOMCでの追加利上げを見極めるべく動きの乏しい展開か。

## 2. 円金利相場概況

目立った国内イベントなく、海外動向を睨んだ狭いレンジでの動きに終始

### 10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

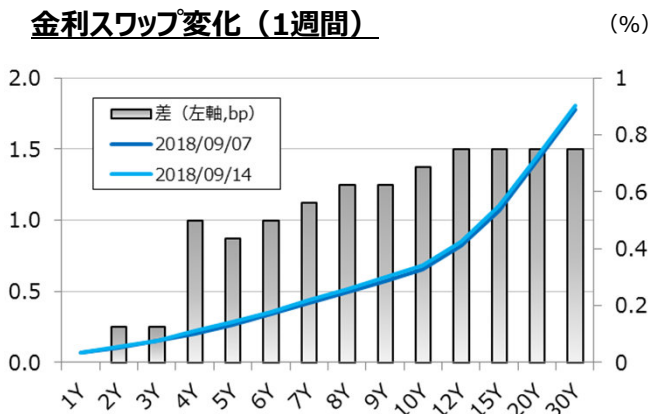


(出所) Bloomberg

### コメント

先週の長期金利(10年債利回り)は、目立ったイベントに乏しく、3連休を控えて横這い圏で推移。週初は、7日発表の8月米雇用統計の好調な結果を背景に上昇スタート。しかし、週中にかけては、債券先物の限月交代(9月→12月)を控えた買戻し圧力や、堅調な本邦30年債の入札結果及び日銀輪番オペを受け下落。週末に向けて、米消費者物価指数の下振れに伴うFRBの「タカ派化」懸念後退やトルコ中銀の予想外の利上げが13日に相次ぐ中、14日には、日経平均株価が約7ヶ月振りに2万3100円台に乗せる等、リスクオンが強まり、若干戻して終えた。今週は、日銀の金融政策決定会合や自民党総裁選などの重要イベントが存在するも、サプライズは想定しづらく、0.10%~0.12%程度の狭いレンジでの動きに終始するだろう。但し、11月の米中間選挙で民主党優勢が伝えられる中でのトランプ大統領の発言には引続き留意が必要。(市場営業部/鳥本)

### 金利スワップ変化（1週間）



### 5年円金利スワップ推移（3年間）



### 今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
吉岡博紀	0.09% - 0.12%	長期金利は0.11%程度で推移しており、需要は底堅い。週末に控える日米貿易協議次第ではリスクオフとなる可能性も。
廣瀬友絵	0.08% - 0.12%	今週の日銀政策決定会合を踏まえ、方向感を探りながら狭いレンジでの動きとなるか。引き続き米通商政策にも注目。

### 3. 今週のトピックス

#### ポンド相場アップデート

#### EU離脱交渉の実質的期限が迫る中、ポンド相場は神経質な展開か

##### BOEは8月の金融政策委員会で現状維持を決定 今後については、緩やかな利上げを示唆

イングランド中央銀行(BOE)の金融政策委員会(MPC)は、8月会合にて、2017年11月以来となる0.25%の利上げを全会一致で決定した。英国経済は1QのGDP成長率(速報値)が前期比+0.1%(確報値では+0.2%に上方修正)と落ち込みを見せたものの、4月以降の月次GDPは上向きを見せていた。「1Qの成長減速は天候等の影響による一時的なもの」とのBOEの見方をサポートするデータが揃っていたため、8月会合での利上げは市場でも事前に織り込まれていた。同会合後に発表されたインフレレポートでは、経済、物価見通し共に僅かながら5月会合のインフレレポートから上方修正されている(GDP成長率は2019年が1.7%から1.8%に、CPIは2018年が2.2%から2.3%に、2019年が2.1%から2.2%に上方修正)。

また、9月会合においては、全会一致で金融政策の現状維持を決定。将来の利上げは緩やかで限定的という見通しが示された。BOEは、インフレ圧力が高まる中でも、緩やかなペースでの利上げが適切との見解を示しており、当面の利上げペースは年1回程度となりそうだ。

**緩やかな利上げ、EU離脱交渉の不透明感からポンドは下落**

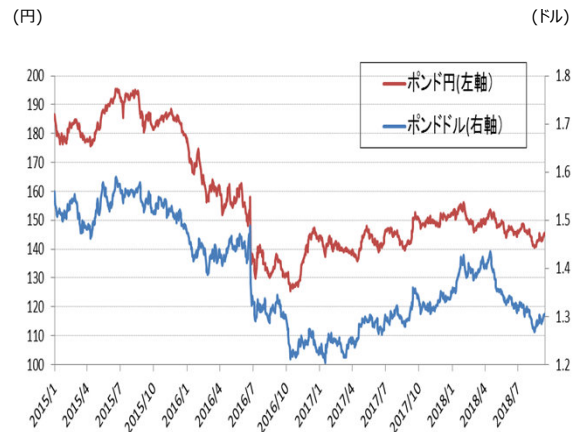
ポンドは早期の利上げ観測の高まりもあり、今年4月にはEU離脱決定以来の高値である1ポンド=1.45ドル付近まで上昇した。しかし、その後は利上げペースの鈍化や、EU離脱交渉を巡る不透明感から下落に転じ、8月には2017年6月以来の安値である1ポンド=1.27ドル割れの水準まで下落し、対ドルでのIMMポジションも2017年5月以来の売り越し水準まで拡大した【図1】【図2】。英国のCPIはBOEのインフレターゲットである2%を依然として上回っているが【図3】、上述の通り、当面の利上げペースは年1回程度と見込まれており、BOEの利上げを材料にしたポンドの上昇は見込みづらいだろう。

##### EU離脱交渉の実質的期限は10月に迫る

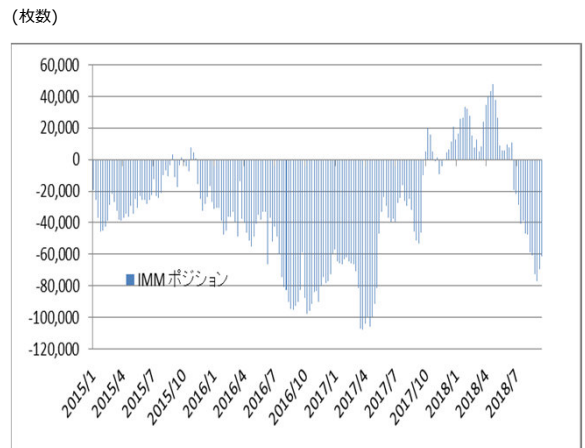
EU離脱交渉の実質的期限が迫る中、交渉の行方に関する市場の注目度は増している。今年7月には、メイ政権の穏健な離脱交渉の姿勢に反対して、強硬派であるデービスEU離脱相、ジョンソン外相が相次いで辞任し、政権の混乱が顕在化。英国、EUの双方の閣僚から、何も決まらないまま2019年3月の期限切れを迎える「無秩序な合意なき離脱」を警戒する発言が相次いだ。離脱交渉の実質的期限は今年10月とされているが、アイルランドとの国境問題などで協議は難航しており、合意の後ずれも意識されている。英国のみならずEUにとっても痛手となるため、合意なき離脱となる可能性は低いと見るが、当面は離脱交渉の行方を見ながら、ポンド相場は神経質な展開となるだろう。

(市場営業部/坂本)

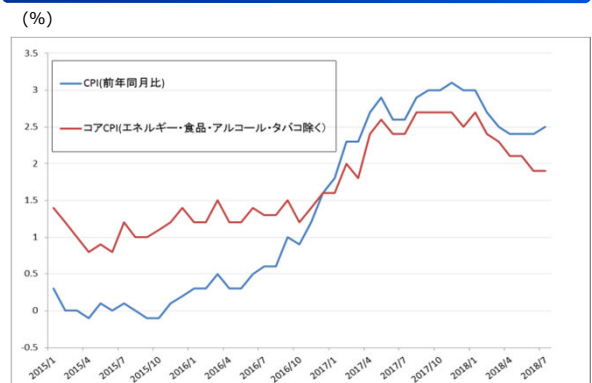
【図1】ポンド相場 (対ドル、対円)



【図2】ポンドIMMポジション



【図3】英国CPIとコアCPI



(出所 Bloomberg)

## ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会